

熱闘 夏の甲子園



打撃練習で快音を響かせる八学光星のメンバー
＝6日、兵庫県西宮市

光星 きょう初戦

主力快音、仕上がりに自信

八学光星は7日、第1試合(午前8時開始予定)の1回戦で創志学園(岡山)と対戦する。ナインは初戦を控えた6日、兵庫県西宮市内のグラウンドで約2時間わたって最終調整。仲井宗基監督は「万全のコンディションで初戦を迎えられ」とチームの仕上がりに自信を見せた。

この日は、野手陣が相手エースを想定した打撃練習に注力。織笠陽多や野呂洋翔らが快音を響かせ、調整の順調ぶりをうかがわせました。投手陣は左腕渡部和幹や右腕宇田海希らがフルベジックリと投げ込んだ。ナインは抽選会以降、宿舍で午前4時に起床しているという。仲井監督は「第1試合を戦える体になってきている。実戦から遠ざかっているが、自分たちの力を最大限發揮できる準備をしてきた」とうなずいた。チーム状況に関しては、「洗平(歩人)は非常に迫力のある球を投じている。投手陣は全員がマックスの状態に仕上がった」と主眼を口にした。「相手の岡村君は良い投手だが、自分たちのバッティングを信じて臨みたい」と打線のつながり期待していた。

(福田駿)

光星打線、どう主戦を攻略

継投はタイミングが鍵

夏の甲子園は3年ぶり11度目の八学光星と、4年ぶり3度目の創志学園が激突。八学光星打線がどう相手エースを打ち崩すが見どころだ。

八学光星は、青森大会ではチーム打率2割9分3厘と本調子になかったが、大会後にバットを振り込んだことで打撃陣の調子は向上。特に中軸の中澤恒貴、織笠陽多、野呂洋翔の勝負

▽大会第2日第1試合(8時)

八学光星―創志学園(岡山)

強さ、長打力を期待。投手陣は左右5人の継投で臨む。リレーのタイミングがポイントになる。

創志学園は、右投手投げの主戦岡村洸太郎が140球後半の直球と変化球のコンビネーションに定評がある。打線は横井寿海や金田恭汰ら好調の左打者に警戒が必要で、光星にとっては勢いづかせたくないところ。(福田駿)